

経営比較分析表（平成30年度決算）

埼玉県 狭山市

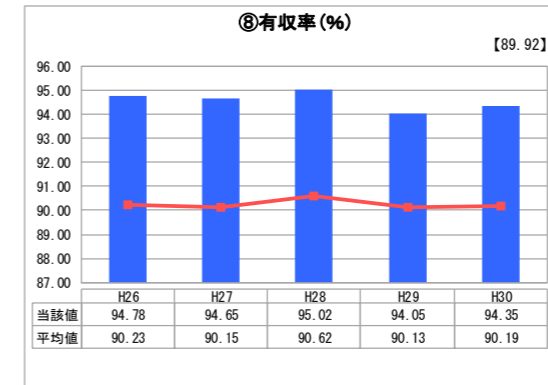
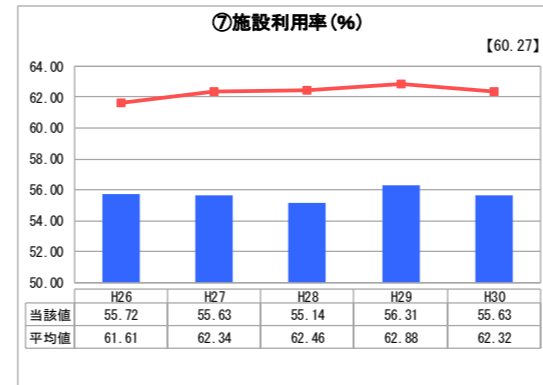
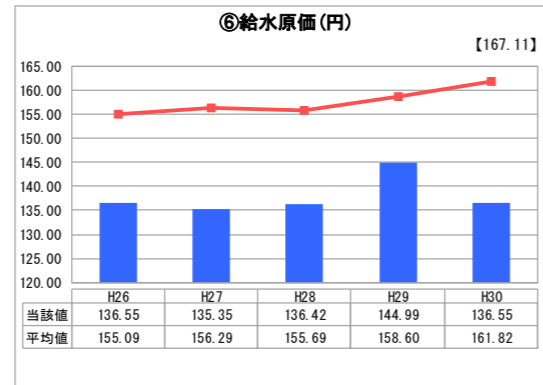
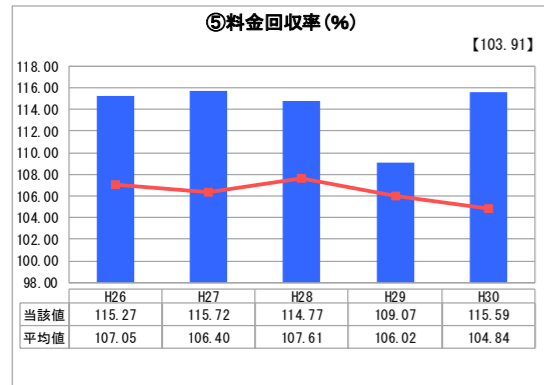
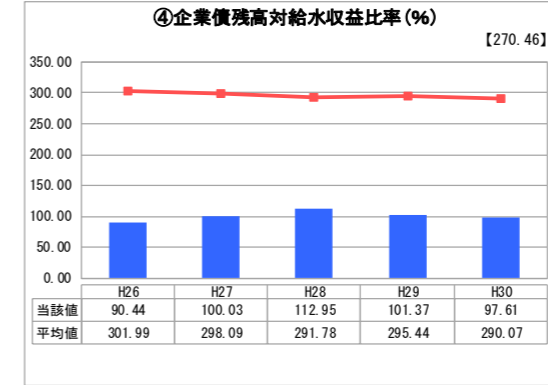
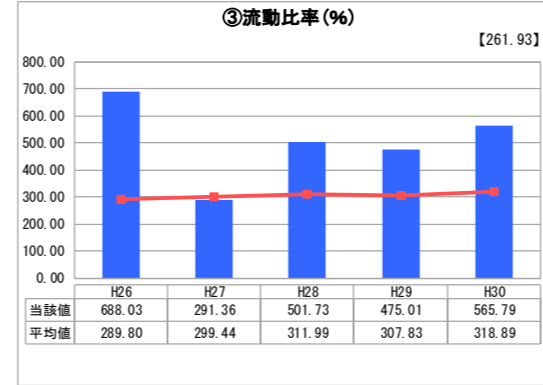
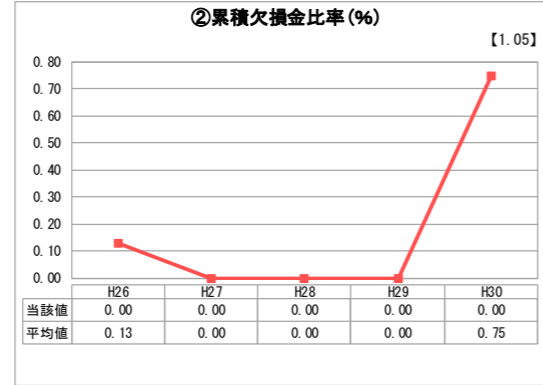
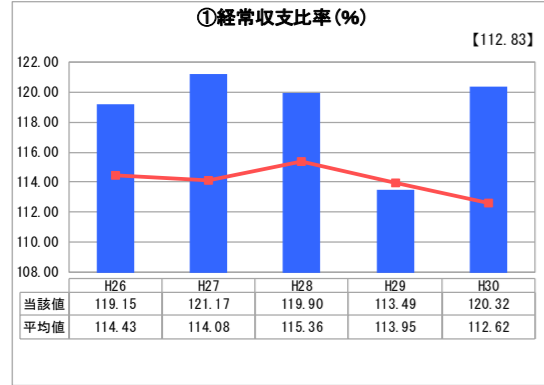
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.47	99.37	2,214	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
151,661	48.99	3,095.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
150,305	46.27	3,248.43

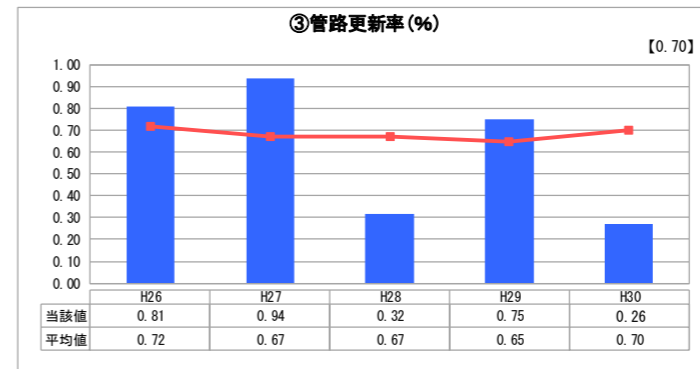
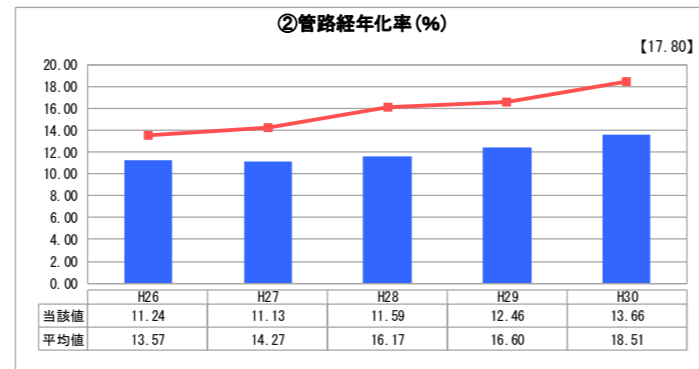
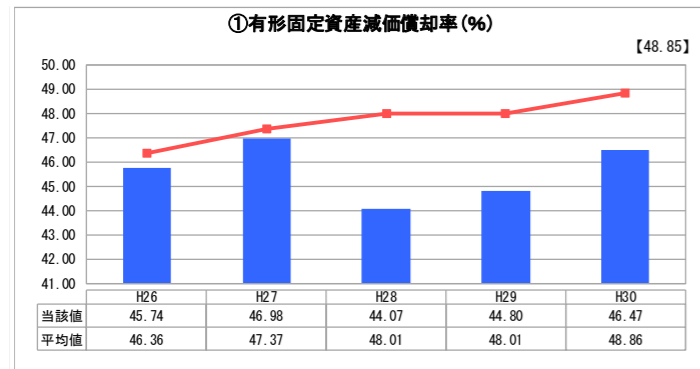
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
100%を超え、健全な経営状況であり、全国及び類似団体(以下類似団体等)の平均値以上の水準にある。平成30年度は、収入は給水収益の減少に伴い減少したものの、支出が資産減耗費の減少に伴い減少したことにより、数値が上昇したものである。今後も施設の更新等を行う必要があり、その財源を確保するため、一定の収益を確保する必要がある。
- ② 累積欠損金
累積欠損金はなく、健全な経営状況である。
- ③ 流動比率
100%を超え、短期的債務に対する支払い能力は健全な状況である。今後、施設の更新等の財源として企業債の借入を予定しており、比率が低下する可能性がある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
類似団体等の平均値より大幅に下回っているが、人口の減少や節水意識の高まり等から水需要が減少傾向にあるため、今後、給水収益の減少に伴う数値の上昇が予想される。
- ⑤ 料金回収率
100%を超え、類似団体等の平均値以上の水準にあり、給水に係る費用を給水収益で賄っている。
- ⑥ 給水原価
類似団体等の平均値より低い水準にあり、平成30年度は、資産減耗費の減少等により支出が減少したため、数値が低下した。今後、施設の更新等に伴う減価償却費等の増加により、数値の上昇が予想される。
- ⑦ 施設利用率
類似団体等の平均値より低い水準にあり、施設の稼働率は低いと判断される。今後見込まれる水需要の減少を踏まえ、施設規模を見直していく必要がある。
- ⑧ 有収率
類似団体等の平均値を上回っており、施設の更新や維持管理が適正に行われていると分析できる。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率
類似団体等の平均値を下回っており、施設の更新等により施設の老朽度を低い水準に保っているが、上昇傾向にあるため、引き続き施設の更新等を計画的に行う必要がある。
- ② 管路経年化率
類似団体等の平均値を下回っているものの、法定耐用年数内での更新が追いついていない状況である。なお、施設等の更新は工種ごとに「法定耐用年数」と「アセットマネジメントに関する手引き(厚生労働省)」に基づき、本市の更新基準を定めている。
- ③ 管路更新率
類似団体等の平均値を下回っており、平成30年度は、計画に基づき浄水施設更新事業を推進したことに伴い、老朽管更新事業を縮小したことから、数値が低下したものである。老朽管(塩化ビニール管)については令和12年度までに更新する計画であるが、適正な維持管理を計画的に行う必要がある。

全体総括

経営の状況としては、サービスの提供に必要な経費を料金収入で賄うことができる健全な状況であるといえる。しかしながら、施設利用率が類似団体等の平均値を下回っていることや、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が上昇傾向にあること等から、施設の適正な維持及び更新とその財源の確保が課題である。今後も、人口の減少や節水意識の高まり等から水需要が減少傾向にあるなかで、施設規模の見直しや老朽化した施設の更新等を計画的に進め、安定的な給水体制を維持するとともに、持続可能な事業経営の確立に努めていく。